

東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場

環境報告書 2022



東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場 環境スローガン

「豊かな自然を守るために」

目次

1. ごあいさつ	P 2
2. 東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場の概要	P 3
3. 事業の紹介（事業活動・製品・サービス）	P 3
4. 環境方針	P 4
5. 環境経営活動（ISO14001:2015）	P 5
6. 環境経営体制	P 5
7. 環境目標	P 6
8. 環境負荷の推移状況	P 7
9. 環境会計	P 8
10. 法令の遵守状況	P 9
11. 事業活動における環境への配慮	P 10
12. 環境教育・環境監査・監査結果	P 11
13. 生物多様性の環境保全活動	P 12
14. 社会貢献活動・コミュニケーション	P 13

編集方針

この環境報告書は、当恵庭工場の2021年度の環境活動への取り組みと成果（一部2022年度を含む）を中心にまとめました。

記載内容は、わかりやすさを目指して独自性を加えてあります。

対象範囲

この環境報告書は、ISO14001:2015に基づくEMSの適用範囲と同じ、「東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場」を報告対象としています。

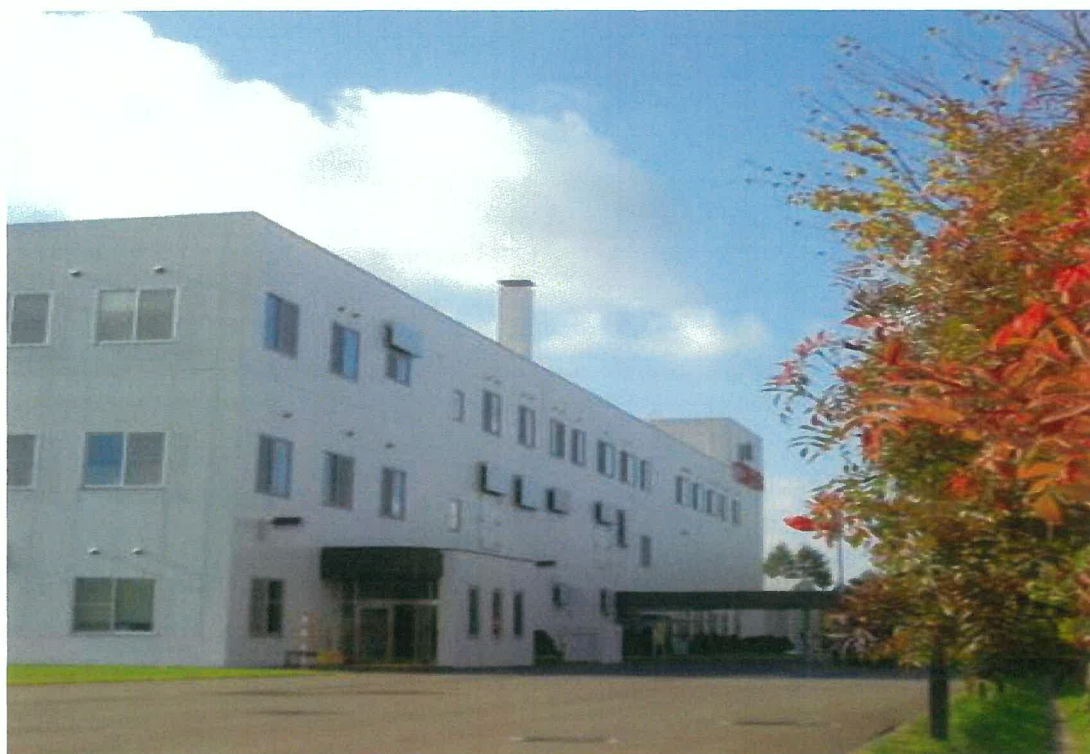
1. ごあいさつ

東芝電波プロダクツ株式会社恵庭工場は、北海道の新千歳空港を持つ千歳市に隣接した恵庭市にあり、恵まれた交通アクセス、穏やかな気候風土を持った恵庭市で、電波機器、通信機器及び関連機器の製造・整備・保守サービス事業を展開しています。

また、生物多様性を含む環境負荷の低減を図り、恵庭工場の環境保全スローガンである「豊かな自然を守るために」を合言葉に従業員一丸となって積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場長

江刺家 義行



2. 東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場の概要

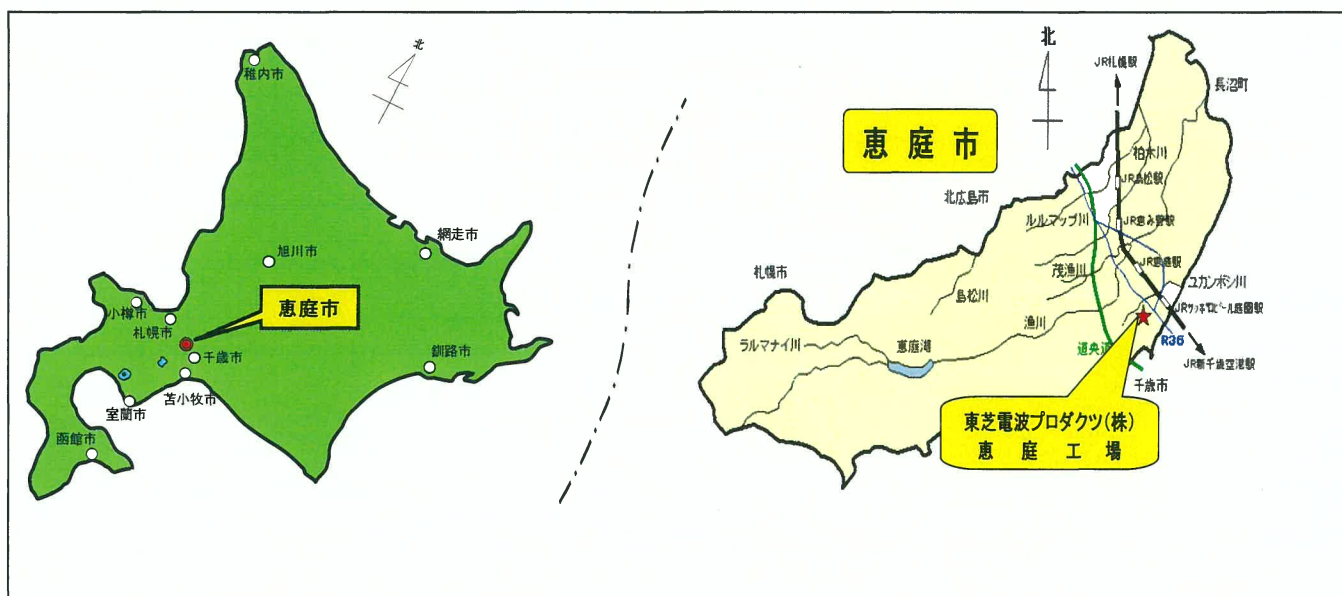
設 立 : 1993年1月

所 在 地 : 北海道恵庭市恵南17-1

敷地面積 : 34,644㎡、建家面積 : 3,857㎡、緑化率 : 54%【19,031㎡】

全従業員 : 120名【2022年4月現在】

事業活動 : 電波機器並びに各種電子機器の製造、販売、据付工事、修理、保守サービス



3. 事業の紹介(事業活動・製品・サービス)

主要取扱製品

■ 誘導システム

●地上装置他

■ レーダシステム

●着陸誘導装置

●対迫レーダ装置他

4. 環境方針 【2022年度】

東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場 環境経営基本方針

東芝電波プロダクツ(株)恵庭工場は、電波機器・通信機器等を整備・製造するエレクトロニクス・システム会社として、「人に寄り添い、社会を支える。」をモットーに、人々の安全・安心と豊かな社会を支えています。そして東芝グループ理念体系における「人と、地球の、明日のために。」の信念のもと、環境への取り組みを経営の最重要課題の一つとして位置付け、豊かな価値の創造と地球との共生を図り、維持可能な開発目標である SDGs の達成に貢献します。

・事業と調和させた環境経営を工場一体となって推進します。

- (1)環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (2)組織の環境側面について環境への影響をライフサイクルの視点で評価し、環境目標を設定します。
- (3)環境側面に関する法令、当工場が同意したその他の要求事項及び自主基準を遵守します。
- (4)環境負荷の少ない物品や材料を購入するグリーン調達を推進します。
- (5)積極的な情報開示や社会貢献活動を通じて、地域とのコミュニケーションを深めます。
- (6)環境教育・啓発活動の継続的な実施により、環境意識の向上に努めます。

・持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷低減に取り組みます。

1. 気候変動への対応

- (1)エネルギーの効率的な利用等により、温室効果ガスを削減します。

2. 循環経済への対応

- (1)資源の有限性を認識し、資源の有効活用及び廃棄物の発生を抑制します。
- (2)包装材を含む製品の資源効率性の向上に努めます。

3. 生態系への配慮

- (1)事業活動による生態系への影響を認識し、自然環境や生物多様性の保全に努めます。
- (2)水資源の有効利用と汚染の予防により、地球環境の保全に努めます。
- (3)化学物質による汚染の予防、環境リスクの低減に取り組みます。

2022年4月1日

東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場長

江刺家 義行

5. 環境経営活動【ISO14001:2015】

☆環境マネジメントシステム体制の充実

- * 法令・条例等の遵守。又、内部監査・外部審査・環境リスク診断による現場管理の充実

☆エネルギー起源CO2排出量の削減

- * 省エネ設備の導入及び省エネ施策等による CO2 排出量の削減

☆化学物質排出量の削減

- * 使用化学物質の代替施策による、取扱量・排出量の削減

☆廃棄物総発生量の削減

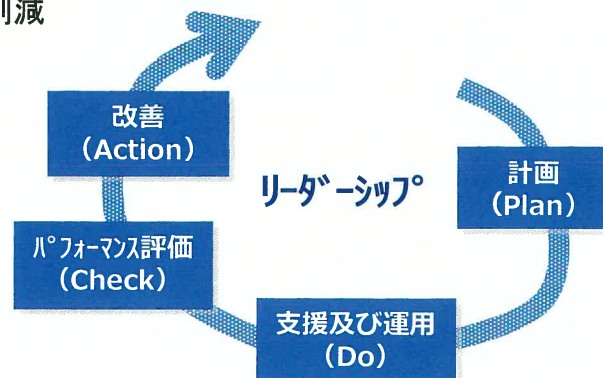
- * 輸送箱・梱包材のリユースによる、発生量の削減

☆廃棄物量の削減

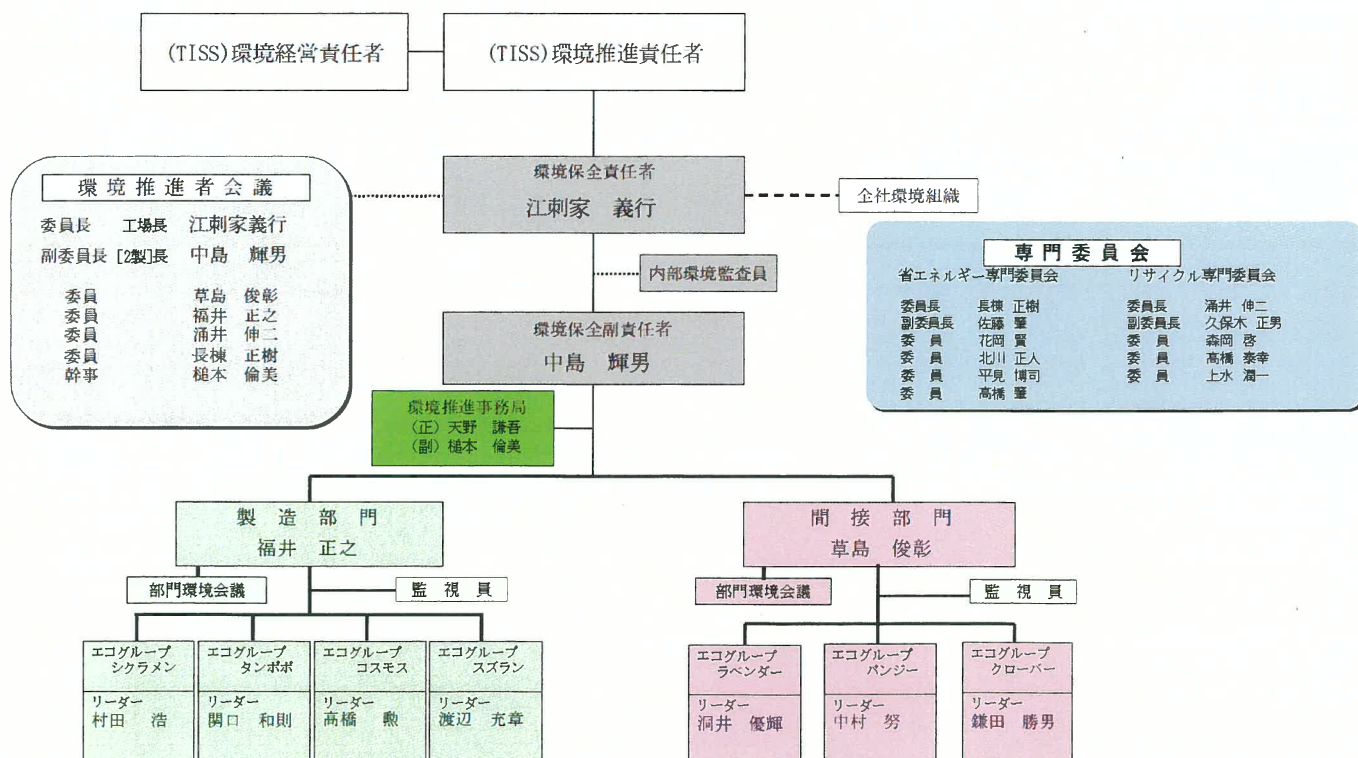
- * 有価物化の促進による、廃棄物量の削減

☆地域との協調

- * 地域環境活動との協調及び環境保全活動の促進



6. 環境経営体制【2022年度】



*エコグループは、主務及び一般者（駐在者・関連会社も含む）で編成する。

*セコムトセック/TBEX

7. 環境目標 【2021年度(実績値)/2022年度/2023年度(目標値)】

東芝グループは、2050年のあるべき姿に向けて、「環境アクションプラン」*1 を策定し、具体的な環境活動項目と、その目標値を管理しています。恵庭工場環境活動項目としては、「気候変動への対応」、「循環経済への対応」、「生態系への配慮」の3つを主に取り組んでいます。

2021年度から2023年度までを活動期間とする環境アクションプランと整合する目標を設定して推進しています。

項目	2021 年度【実績】			2022 年度 目標値	2023 年度 目標値
	目 標 値	実績値	評価		
気候変動 への対応	エネルギー起源 CO2 排出量原単位改善 12.6t-CO2/億円	10.9t-CO2/ 億円	○	10.8t-CO2/ 億円	10.6t-CO2/ 億円
循環経済 への対応	廃棄物総発生量原単位改善: 1,048.3kg/億円	1,024.0kg/ 億円	○	1,031.3kg/ 億円	1,028.5kg/ 億円
	廃棄物量の抑制: 40,866.0kg	25,418.5kg	○	27,793.0kg	24,618.0kg
生態系へ の配慮	化学物質総排出量原単位削減: 1.3kg/億円	0.7kg/ 億円	○	1.0kg/ 億円	1.0kg/ 億円

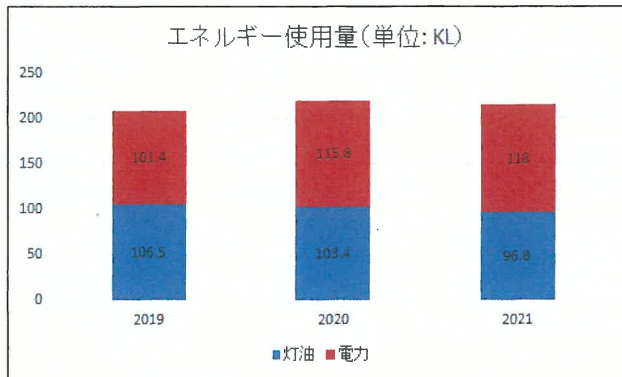
* 1:「環境アクションプラン」

地域特性を踏まえてグローバル事業を拡大するとともに、製品・サービスのライフサイクルにわたる環境負荷のピークアウトを目指す東芝グループの環境指標

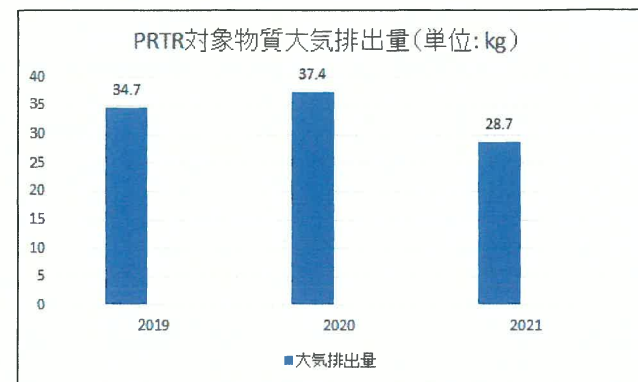
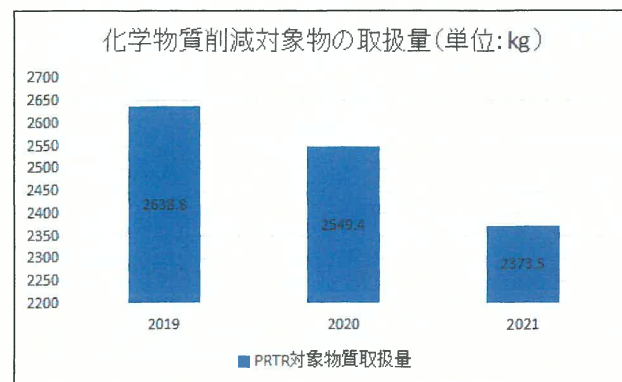
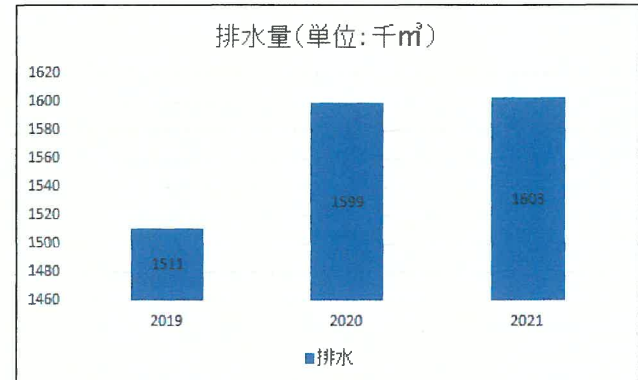
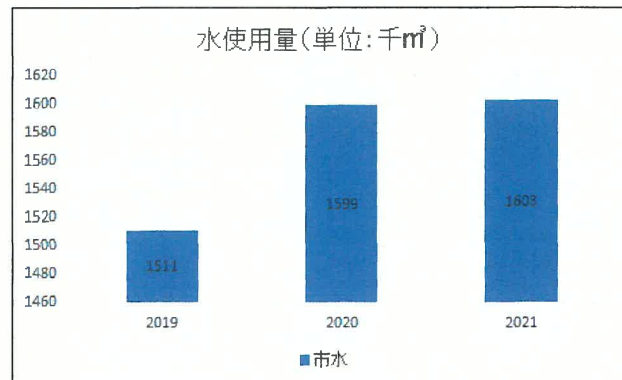
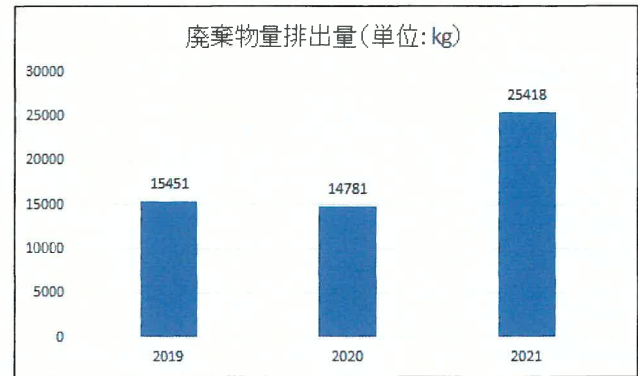
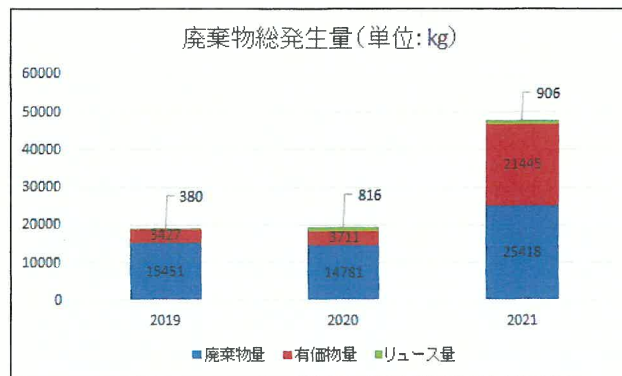
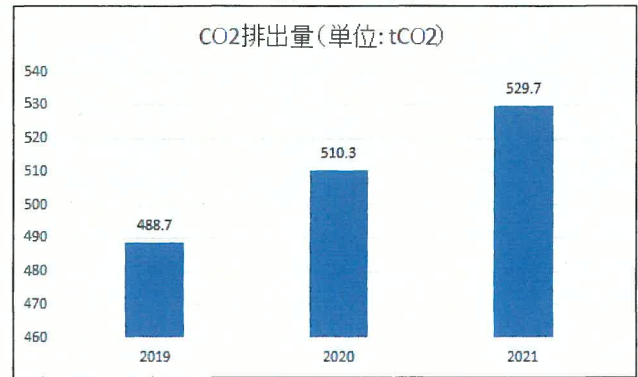
- ① Management :環境リスク・コンプライアンス徹底
環境ブランド向上施策の推進
生物多様性の保全
- ② Business :モノづくりの環境負荷低減
製品・サービスの総合的な環境性能向上

8. 環境負荷の推移状況 【2019年度～2021年度】

投 入



排 出



① PRTR対象物質:キシレン・トリメチルベンゼン(灯油)・トルエン他

9. 環境会計 【2021年度】

当社では、事業活動の中で環境保全活動のために投じた費用を定量的に把握、分析し環境活動を推進するため環境会計を導入しています。

○環境保全活動コスト*2

(単位:千円)

分 類		内 容	環境投資額*3	備考欄
事業エリア内コスト		環境負荷の低減	25,400	
コスト内訳	①公害防止	大気・水質等の汚染防止	665	
	②環境保全	温暖化対策、省エネ	23,350	ボイラー更新
	③資源循環	廃棄物管理・リサイクル	1,385	
上・下流コスト		グリーン調達、廃製品汚染防止等	0	
管理活動コスト		環境教育、EMS管理、環境活動	10,614	
研究開発コスト		ECP製品の研究開発、環境保全研究開発	0	
社会活動コスト		地域環境支援等	0	
環境損傷対応コスト		土壌汚染修復等	0	
合 計			36,014	

*2. 環境保全活動コスト: 事業活動に起因する環境への負荷を抑制することを目的としたコスト及びこれに関連するコスト

*3. 環 境 投 資: 環境保全効果が将来まで及ぶ、又は将来に向けての投資

10・法令の遵守状況【2021年度】

＜大気測定結果＞ 小型貫流ボイラー×3台【灯油使用】

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NO _x (ppm)	260以下	230	86.0	年1回
SO _x (m3N/h)	大気汚染防止法 Soxの排出基準式による	5.0	0.0	年1回
ばいじん(mg/m3N)	0.3以下	0.25	0.01	年1回

＜水質・下水道測定結果＞ 雑排水【恵庭市終末処理施設】、雨水【ユカンボシ川へ放流】

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0以上～9.0以下	(雑)6.0～8.4 (雨)6.0～8.6	(雑)6.9/(雨)6.9 (雑)6.9/(雨)6.7	年2回(上期/下期)
BOD(mg/ℓ)	600.0未満	550.0	(雑)1.9/(雨)8.1 (雑)0.6/(雨)0.5	年2回(上期/下期)
SS(mg/ℓ)	600.0未満	550.0	(雑)25.0/(雨)2.0 (雑)1.0/(雨)1.0	年2回(上期/下期)
カマルヘキサン[鉱物油 脂類](mg/ℓ)	5.0以下	5.0	(雑)0.5/(雨)0.5 (雑)0.5/(雨)0.5	年2回(上期/下期)
カマルヘキサン[動植物 油脂類](mg/ℓ)	30.0以下	5.0	(雑)0.5/(雨)0.5 (雑)0.5/(雨)0.5	年2回(上期/下期)
亜鉛含有量(mg/ℓ)	2.0以下	2.0	(雑)0.04/(雨)0.1 (雑)0.04/(雨)0.	年2回(上期/下期)

＜騒音・振動測定結果＞ 空気圧縮機【高圧ガス設備付属品】

	測定場所:時間	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界: 昼	対象区域外	不快な騒音 有/無	異常なし	月/1回
	敷地境界: 夜	対象区域外	対象外	対象外	対象外
振動(dB)	敷地境界: 昼	対象区域外	不快な振動 有/無	異常なし	月/1回
	敷地境界: 夜	対象区域外	対象外	対象外	対象外

＜環境事故・指導・指摘・苦情の有無＞

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

11. 事業活動における環境への配慮 【2020年度/2021年度】

当社では、事業プロセスにおける生産活動において、環境活動や気候変動への対応、循環経済への対応、生態系への配慮を計画的に取り組んでいます。

事例1. 気候変動への対応 【CO2 排出量の抑制】

■設備投資による改善

- ① 1号棟3F作業場空調設備導入【2020年度設備投資】
- ② 1号棟・2号棟水銀灯48台を LED 照明器具へ更新【2020年度経費】
- ③ 1号棟3F通路蛍光灯を LED へ更新【2021年度経費】
- ④ ボイラー2号缶を高効率ボイラーへ更新【2021年度経費】

事例2. 気候変動への対応 【CO2 排出量の抑制】

■省エネ活動

- ① 公共場所の照明器具の消灯活動の継続【電力量の削減】
- ② パッケージエアコン間引き運転の周知【電力量の削減】
- ③ 周波数変換装置運用方法の見直し【電力量の削減】
- ④ 高効率ボイラーの優先稼働【灯油使用量の削減】

事例3. 循環経済への対応 【廃棄物量・水受入量の抑制】

- ① 輸送用梱包材(段ボール)等のリユースの促進【発生量の抑制】
- ② 分別回収による最終処分量の削減及び3Rの推進
- ③ 有価物化による廃棄物量の削減(有価物品:金属屑(線材))【排出量の削減】
- ④ 節水の啓蒙継続【水使用量の削減】

事例4. 生態系への配慮 【化学物質大気排出量の抑制】

- ① 製品清掃時のエタノール使用方法の見直し【取扱量の削減】
- ② エタノールの代替品を一部使用【排出量の抑制】
- ③ 高効率ボイラー優先稼働による灯油使用量の抑制【排出量の削減】

12. 環境教育・環境監査・監査結果 【2021年度】

○環境教育

① 階層別環境教育【年/1回】

② 力量が必要な教育【年/1回】

- ・著しい環境側面の原因となる可能性をもつ業務従事者
- ・法的責務、届出、法的監視・測定、記録の保管等従事者
- ・環境目標管理者
- ・緊急事態対応者
- ・内部監査員
- ・順守評価者
- ・監視員

○環境監査の種類と実施時期

監査・審査	実施時期	目的
ISO14001:2015 外部審査	11月	ISO14001の規格の要求事項に則り、(恵)環境マネジメントシステムが、構築・運用され、要求事項を満たしているか審査する。
ISO14001:2015 (TEPT)内部監査 (TISS)内部監査	7月 8月	目的・目標、計画が策定され、策定した目的・目標、計画が達成されているか？不適合が発生した際に、是正処置が取られているか？ 遵法状況 前回までの監査の指摘事項改善状況他を監査する。
(TISS)リスク診断	10月	① 遵法管理診断、②施設管理診断を実施しリスクレベルを判定し必要に応じて、改善計画書に則り改善し、遵法・施設の環境リスクの低減状況を診断する。

○2021年度環境監査結果

- ① ISO14001(TEPT)内部監査:不適合:0件 観察:1件 推奨:2件 【改善処置済み】
- ② ISO14001(TISS)内部監査:不適合:0件 観察:0件 推奨:1件 【改善処置済み】
- ③ (TISS)環境リスク診断:リスクレベル3 :3件 リスクレベル2 :19件 【改善処置済み】
- ④ ISO14001 外部審査:不適合:0件 改善の余地:0件

13. 生物多様性の環境保全活動 【2021年度】

当社では、生物多様性による環境保全活動の一環として構内にビオトープを設置し空中移動性生物を工場敷地内に呼び込むことにより、地域生態系ネットワークの形成を目標として取り組んでいます。

○生物多様性の基本施策と実施概要

- (1)基本施策:工場緑地の一部を、生物多様性配慮型に切り替え、工場内への「空中移動性生物の呼び込み」を目標とします。(生態系ネットワークの形成)
- (2)実施概要:構内に、ミズナラ・ハルニレの木を植樹し工場周辺に生息しているチョウ類の呼び込みを指標とします。(ビオトープの設置)

○生態系ネットワーク及び指標生物について



○2021年度測定結果及び観測写真

	年月日	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9
	天候/気温						
	場所	ビオトープ周辺	ビオトープ周辺	ビオトープ周辺	ビオトープ周辺	ビオトープ周辺	ビオトープ周辺
	記録者	榎本	榎本	榎本	榎本	榎本	榎本
シジミチョウ	卵	0	0	0	0	0	0
	幼虫	0	0	0	0	0	0
	サナギ	0	0	0	0	0	0
	成虫	0	7	40	7	37	18
タテハチョウ	卵	0	0	0	0	0	0
	幼虫	0	0	0	0	0	0
	サナギ	0	0	0	0	0	0
	成虫	0	0	0	0	0	0
ゴマシジミチョウ (絶滅危惧種)	卵	0	0	0	0	0	0
	幼虫	0	0	0	0	0	0
	サナギ	0	0	0	0	0	0
	成虫	0	0	3	0	1	1
その他の生物	毛虫		鳥	鳥	鳥	鳥	鳥
	鳥		虫	虫	虫	虫	虫
	蛾				黄色い蝶		黄色い蝶
							トンボ

○2021年度トピックス

- (1)工場敷地内にワレモコウを追加で植栽し、絶滅危惧種の「ゴマシジミチョウ」の呼び込みを環境保全活動の一環として取り組んでいます。



14. 社会貢献活動・コミュニケーション 【2021年度/2022年度】

<えにわ市民サケの会活動への参加>

恵庭工場では、毎年、生物多様性の取り組みの一環として、近隣河川周辺の清掃活動及び漁川への稚魚放流による種の保存・保護活動を実施しています。当日は近隣住民及び地元の小学生達と共にサケの稚魚放流・河川敷の美化を行いました。

今後も地域貢献活動の一環として、継続していく予定です。

(実施概要)

・日時:2022年4月18日

・参加人数:5名



<花いっぱい運動&クリーン作戦活動>

恵庭工場では、毎年、環境活動の取り組みの一環として、工場敷地内に多種の花植え及び工場周辺の清掃活動を25年にわたり、実施しています。

当日は従業員により花植え・沿道の美化を行いました。

今後も地域貢献活動の一環として、継続していく予定です。

(実施概要)

・日時:2022年5月30日

・参加人数:15名

* 新型コロナウイルス感染に配慮し人数を制限して参加



<クリーンウォーキング活動の参加>

恵庭市民・事業者等が恵庭市内を歩きながら清掃する全市的なキャンペーンに参加しています。

当日は、市役所・小中学校・高校・大学・陸上自衛隊・各町内会・企業・各種団体の方々や市民と共に環境美化活動を行いました。

今後も地域貢献活動の一環として、継続していく予定です。

(実施概要)

・日時:2022年5月30日(ゴミの日)

・参加人数:5名



<工業団地交友会道路清掃への参加>

恵庭工場では、毎年、環境活動の取り組みの一環として工業団地交友会道路清掃に参加して、工場周辺の道路清掃活動を実施しています。

当日は工場環境担当者により、沿道の美化活動を行いました。

今後も地域貢献活動の一環として、継続していく予定です。

(実施概要)

・日時:2021年11月 1日

・参加人数:9名

* 新型コロナウイルス感染に配慮し人数を制限して参加



東芝電波プロダクツ株式会社 恵庭工場

〒061-1411 北海道恵庭市恵南17-1

TEL:0123-33-0140 FAX:0123-33-0119

編集発行

川崎事業所 恵庭工場 管理部 恵庭生産管理担当

;